

基礎を固めるクラス 偏差値のめやす 40～50程度 主な学年のめやす: 高1後半～高2

この紙のゴール: 300～450語の初見の論説文を、段落の働きを追いながら読み、要点を自分のことばで書く / 目安15分(本文+設問)。本文はこの教材のための書き下ろし(初見用)です。

[1] Go outside tonight and look up. In a big city, you may count ten stars, or twenty. A hundred years ago, people in the same place could see thousands. Many children today have never seen the Milky Way, and they do not know that they are missing it. The stars did not move. We did.

[2] Before we blame the lights, we should be fair to them. Streets need light. People walk home at night, buses run, and hospitals and factories work in the dark. Nobody is asking a city to turn everything off. Light at night is not a mistake. It is a service.

[3] The real question is not how much light we use, but which way it points. A lamp that throws light sideways and upward is lighting the sky. Nobody lives in the sky. That part of the light does no work at all, and it is the part that hides the stars.

[4] The sky is not the only thing that changes. Some birds travel at night and use the sky to find their way. Sea turtles come out of their eggs on the beach and move toward the brightest place they can see. For a very long time, that place was the sea.

[5] Here is the surprising part. This kind of pollution does not stay. Smoke and plastic remain for years after we stop making them. Light does not. If a town changes its lamps so that the light points down, the stars come back the same night.

[6] So this is a problem you can act on. Look at the light outside your own house. If it shines sideways, put a cover on top of it, or point it at the ground. The street below will be just as bright, and the sky above will be darker. It costs almost nothing.

〔語注〕 the Milky Way=天の川 blame=責める sideways=横向きに pollution=汚染・公害

本文には自由に書き込んでください。つなぎの語(But / Yet / however)に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問Iがそのまま解けます。

明かりは、下を照らせばいい 設問

年 組 番 名前 _____

本文（1枚目）を見ながら答えてください。

大問1 段落の働き それぞれの段落が、この文章の中でどんな働きをしているかを選ぼう。

(1) [2]段落の働きとして、いちばん合うものは？ 思考・判断・表現 答え（ ）

3点

- ア [1]段落の具体例を、くわしく挙げている
- イ 筆者の主張を、はじめて言い切っている
- ウ 反対の立場にも言い分があることを、いったん認めている
- エ 読者にしてほしいことを、提案している

(2) 筆者が「でも、そうではない」と切り返しはじめるのは、どの段落の最初の文？ 思考・判断・表現 答え 3点
（ ）

- ア [2]段落
- イ [3]段落
- ウ [4]段落
- エ [5]段落

大問2 内容の読み取り 本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) 筆者が本当の問題だと考えているのは何か。 知識・技能 答え（ ）

3点

- ア 明かりの向き
- イ 明かりの量
- ウ 明かりの色
- エ 明かりの値段

(2) ウミガメについて、本文の内容に合うものは。 知識・技能 答え（ ）

3点

- ア 夜のあいだは砂の中でじっとしている
- イ いちばん明るい方へ動く
- ウ 星の位置を見て海へ向かう
- エ 明かりがあると卵からかえらない

(3) この汚染が「意外だ」と筆者が言うのはなぜか。 思考・判断・表現 答え（ ）

3点

- ア だれも気づかないうちに広がったから
- イ 都会よりいなかのほうがひどいから
- ウ やめればすぐに元にもどるから
- エ 他の汚染より体に悪いから

大問3 書いて答える 本文をもとに、日本語で書こう。

(1) 筆者が読者にすすめていることを、20字以内で書きなさい。 思考・判断・表現

5点

明かりは、下を照らせばいい（基礎） | 解答と採点

解答 選択問題

大問1 段落の働き		
(1)	ウ	we should be fair to them / Light at night is not a mistake. It is a service. で「夜の明かりは必要だ」といったん認めている。エは[6]段落。
(2)	イ	The real question is not how much light we use, but which way it points. が転換点。譲歩（[2]）→転換（[3]冒頭）→具体例（[4]）→主張（[5]）→提案（[6]）の型。
大問2 内容の読み取り		
(1)	ア	[3]段落 not how much light we use, but which way it points. イは筆者が明確に否定している側。
(2)	イ	[4]段落 move toward the brightest place they can see. ウは鳥のほうの記述との取りちがえ。
(3)	ウ	[5]段落 This kind of pollution does not stay. / the stars come back the same night.

記述の採点 模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問3(1) 筆者が読者にすすめていることを、20字以内で書きなさい。5点

家の外の明かりを下に向ける。	
配点	その点を与える条件
3点	「下に向ける・上をふさぐ」にあたる内容がある
2点	「自分の家の外の明かり」に触れている

「電気を消す」「明かりを減らす」と書いた答案は0点。筆者は[2]で明かりの必要を認め、[3]で問題は量ではなく向きだと言い切っている―大問1(1)と同じ力をここで測っている。



明かりは、下を照らせばいい（基礎） | 出題のねらい

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

環境をめぐる論説の典型で、「量を減らせ」ではなく「向きを変えろ」という主張の形をとります。生徒の多くは環境の英文を見た瞬間に「使う量を減らそう」と要約してしまうので、主張が量ではなく向きにあると読めているかが大問1と要約で効きます。もう1つの芯は最終段落の「この汚染はたまらない」で、ここは一般的な環境問題の知識で読むと逆に読み違えます—本文に書いてあることだけで答える練習に向きます。読んだあとは、対立する2つの必要（安全と夜空）を両立させる案を書かせる活動（意見文の設計図・パラグラフの型）へ渡せます。

型	観点	テストでの使い方
段落の働き	思考・判断・表現	論の展開の読解。「減らせ」ではなく「向きを変えろ」の主張の形をここで測る
転換点の特定	思考・判断・表現	譲歩から主張への折り返しを1文で指させるか。要約指導の入口
内容一致／下線部和訳	知識・技能	基礎・標準は選択、発展は和訳。分詞と否定の範囲の精度をここで測る
内容説明（記述）	思考・判断・表現	本文に書かれていることだけで答えられるか。部分点の刻みつき
要約（20語）	思考・判断・表現	発展版のみ。譲歩・主張・結びの3要素で採点する（刻みは裏面）

大問1は3版とも同じ問いです（段落が論の中でどう働いているか）。内容が取れているかではなく、論の運びが見えているかを測ります。

3つの版の使い分け

同じ英文の骨格（段落構成・論の運び）を保ったまま、語数・語彙・答え方を上げてあります（基礎300語=選んで答える＋日本語20字／標準380語=選択肢が英語＋日本語40字×2／発展450語=下線部和訳2・内容説明80字・英語20語要約の全問記述）。①クラスの帯に合わせて選ぶ ②同じクラス内で配り分ける ③基礎→標準→発展と学期をまたいで同じ英文に戻る—の3通りが使えます。③は「同じ話がどこまで読めるようになったか」を生徒自身が測れるので、学期末・学年末の振り返りに向きます。なお大問2以降は正解の記号を版ごとにずらしてあります（配り分けのときの写し合い対策）。大問1だけは3版とも同じ問い・同じ記号です—ここは測る力をそろえるための共通の骨格なので、あえて変えていません。